



# 福祉の現場から

今回の「虫めがね」は、伯耆町社会福祉協議会を訪問しました。

地域福祉と介護事業を担う、当協議会の「こぼれ話」を紹介します。

**質問** 会長、協議会での苦勞話を聞かせて下さい。

**中曾会長** ①合併当初、職員の給料に旧町間で差があり、二年程かけて調整いたしました。職員の士気が下がらない様にとの思いでした。②介護事業については他事業者との競争があり、利用者確保には、他にはないキメの細かいサービスに心がけ、今にいたっております。③人件費が中心の運営には、行政の支援が欠かせず、地方分権・三位一体改革の動向には目が離せません。介護保険事業の見直しにより、サービスの単位数は伸びているが、基準収入は上がらず、経営の負担となっている。有償運送等、負担が増す中、地域福祉の維持発展に努力をしております。ご支援、ご理解をお願いします。



**質問** 通所介護の現場の様子はどうですか。

**石原主任** 利用者の受け入れには注意を払います。認知症が増える中、家庭風の部屋を用意し、隔離ではなく、認め合う環境作り心がけています。最近のエピソードとして、利用者が多様化し、専門的な会話を求められることもあり、職員は対応に奮闘の毎日です。

## 編集後記

九月に入り、政局は大きな動きが続いております。一年以内に二人の総理大臣の辞任、麻生新内閣のスタートと目まぐるしく変わり、先行き不透明な感じさえもします。

『三笠フーズ』による汚染米の不正転売事件、主食であるコメの安全に対する消費者の信頼を揺るがしています。町政の執行にあたっては住民の皆様の信頼があつてこそ成り立っているのです。

(中田記)

### 【編集】

議会広報特別委員会

委員長 大森英一

副委員長 遠藤俊寛

委員 幅田千富美

中田壽國

長谷川 盟

細田 栄

「議会だより」に対するご意見をお待ちしております。

